

# 青梅市文化財ニュース

第374号

平成30年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

## 青梅市内の膳椀倉と膳椀

膳椀は、冠婚葬祭が自宅で行われていた江戸時代から昭和時代に必要とされた、客用の食器・道具類です。日常使いの物より高価で多人数分の揃いの物が必要であったため、個人で常備するより共同所有して必要時に使用するようになり、「膳椀倉」と呼ばれる倉庫で保管されてきました。しかし、昭和30年代頃から結婚式場・斎場で冠婚葬祭が行われるようになると、膳椀はしだいに使用されなくなり、膳椀倉は壊されるようになりました。

そこで、青梅市の膳椀倉については、32年前の昭和61(1986)年に調査が行われ、『人生儀礼緊急調査報告書』（青梅市教育委員会）に記載されました。膳椀倉の数に注目すると、旧吉野地区で3か所、旧調布地区で12か所、旧霞地区で5か所、旧小曾木地区で4か所の計24か所で確認されましたが、平成7(1995)年発行の『増補改訂 青梅市史』（下巻）では、式場・斎場の普及により、膳椀倉は何か所かで残るだけとなってしまったと記述されています。

ところが最近になって、老朽し壊れそうな膳椀倉についての相談が博物館に寄せられ、予想外に多くの膳椀倉が保存されていることが分かりました。膳椀倉は相互扶助の暮らしを物語る民俗資料であるため、平成29(2017)年～30(2018)年にかけて膳椀倉の再調査を行いました。調査過程で、膳椀の保管箱に墨書された購入年などが膳椀共有の歴史を示すことに気づいたため、膳椀もあわせて調査しました。以下はその概要です。

○膳椀倉（かつて47か所、現存は18か所）

	前調査地区名	かつて、膳椀倉があった数	現在、膳椀倉がある数	調査した現在の町名
1	旧青梅地区	0	0	裏宿町・天ヶ瀬町
2	旧三田地区	0	0	二俣尾・沢井・御岳・御岳本町
3	旧吉野地区	5	3	柚木町・梅郷・和田町・畑中
4	旧調布地区	21	6	駒木町・長淵・友田町・千ヶ瀬町・河辺町
5	旧霞地区	13	6	藤橋・今井・新町・根ヶ布・東青梅・師岡町・野上町・大門・塩船・谷野・吹上・木野下・今寺
6	旧小曾木地区	7	3	富岡・小曾木・黒沢
7	旧成木地区	1	0	成木
	合計	47	18	

○膳椀（膳椀保管箱に年代を示す墨書が残されていた組）		<年代順>
旧調布地区	（駒木町二丁目）山根組	天保4（1833）年
旧吉野地区	（柚木町二丁目）木下組	安政2（1855）年
旧吉野地区	（柚木町一丁目）山崎組	文久2（1862）年
旧調布地区	（駒木町二丁目）大澤庭場組	元治元（1864）年
旧霞地区	（今寺一丁目）今寺西組	慶応年間（1865～1868年）
旧霞地区	（今井一丁目）今井中組	明治12（1879）年
旧霞地区	（新町二丁目）新町中組・禮印組合	明治18（1885）年
旧小曾木地区	（黒沢三丁目）黒仁田組	明治18（1885）年
旧調布地区	（長淵）下長淵四番組	明治30（1897）年頃
旧調布地区	（友田町一丁目）友田方砂組	明治40（1907）年
旧霞地区	（新町一丁目）新町上組・松印組合	明治44（1911）年
旧調布地区	（駒木町三丁目）鴨下組	大正4（1915）年
旧吉野地区	（柚木町三丁目）根岸組	昭和6（1931）年
旧霞地区	（今井二丁目）七日市場	昭和27（1952）年頃
旧霞地区	（今井二丁目）原今井組	昭和29（1954）年

青梅市では江戸時代末の天保4（1833）年から戦後の昭和29（1954）年に、それぞれの組で膳椀が共有され始めました。そのうち最も早い江戸時代末に膳椀が共有された、旧調布地区の山根組・大澤庭場組、旧吉野地区の木下組・山崎組では、墨書や伝承から、当初は寺社の祭礼行事用・お日待用・念仏講用に揃えられ、後に冠婚葬祭時に使用されたと推察されます。

膳椀には高価な漆器が多くあるため、丁寧に扱われていました。使用後は、好天の日にぬるま湯で丁寧に洗い、日陰で干して、前もって縫っておいた袋や和紙で一つずつくるみ、収納していました。ある組では、使用後の返却時に隣家2名が立ち合い、破損の有無と借りた数の確認をした後に収納し、破損時は償う事と決めていました。漆がはげると、青梅の喜楽屋へ修理に出した記録も数例ありました。

現在、膳椀は友田地区で祭礼・バーベキューなどで使用されているだけです。その他の地区では、昭和61（1986）年の原今井組での使用記録を最後として、使用されていません。

膳椀倉を壊す時には、膳椀は組内で分けられたり、競売に掛けられたり、博物館に寄贈されたりした例があります。博物館に寄贈された新町上組・松印組合の膳椀の一部は、新町の旧吉野家住宅内に常時展示されています。

（文責 三好ゆき江）